

PSTNマイグレーション マイラインの対処方法について

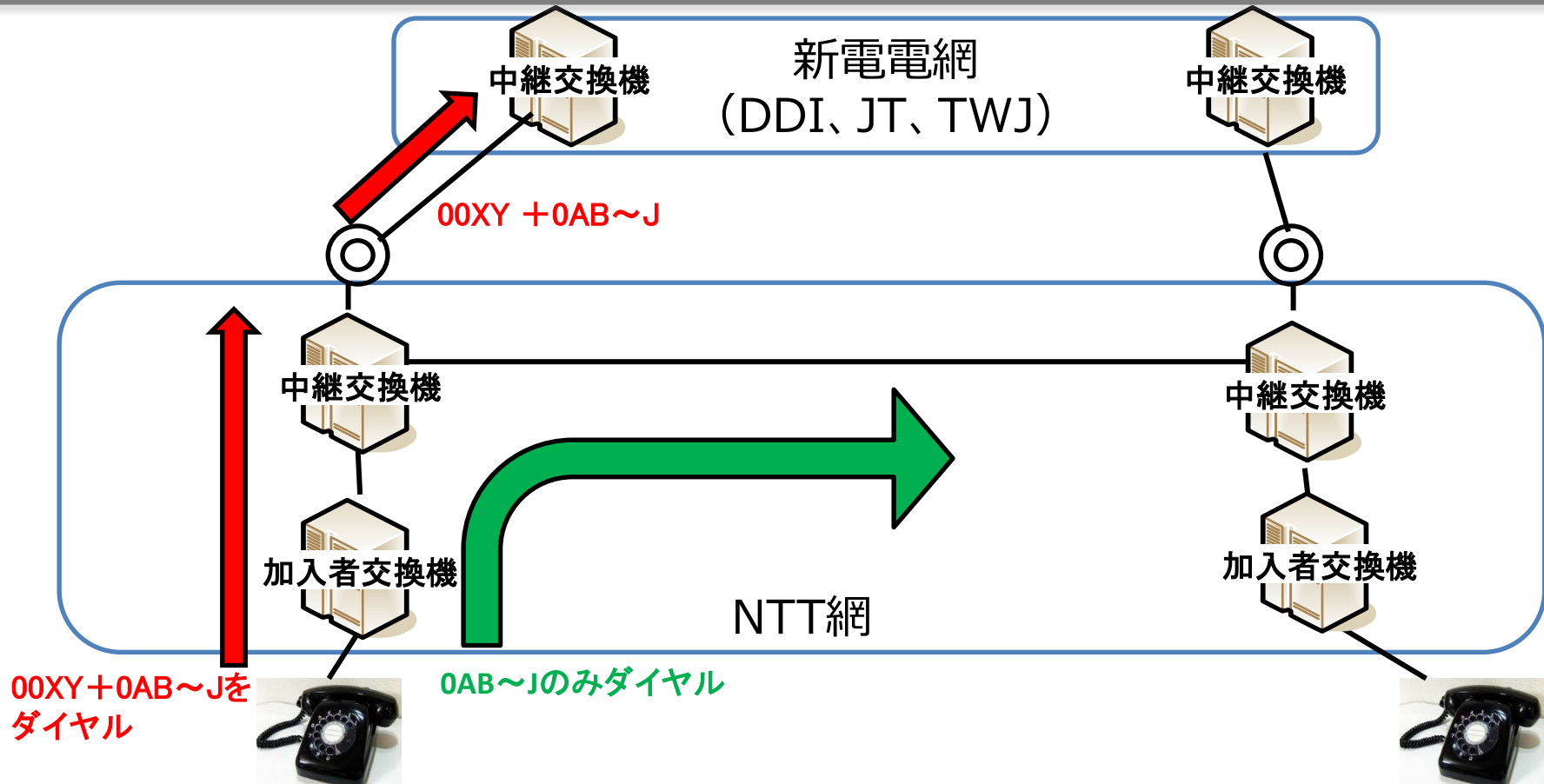
2016年11月4日

KDDI株式会社

1. 通信自由化当初の競争環境	…P2
2. マイラインの導入	…P3
3. マイグレ後のマイライン	…P4
4. 00XYルーティングとマイライン（事前登録）の違い	…P5
5. マイラインの役割とマイグレにおける検討	…P6
6. マイラインを継続する場合	…P7～8
7. 検討の進め方	…P9
8. 検討のポイント	…P10～11
（参考1：各案の比較）	…P12
（参考2：マイラインの仕組み）	…P13
（参考3：主な00XY付加サービス）	…P14

1. 通信自由化当初の競争環境

- ・電電公社時代 : 独占事業のため、事業者選択は不可
- ・通信自由化と新電電の参入 : プレフィックス (00XY) による新電電選択
 - NTTを利用する場合のダイヤル手順 :
⇒ 「0AB~」番号だけダイヤルすればよい。
 - 新電電を利用する場合のダイヤル手順 :
⇒ 「00XY」+ 「0AB~」番号」と、ダイヤル手順が4桁多い

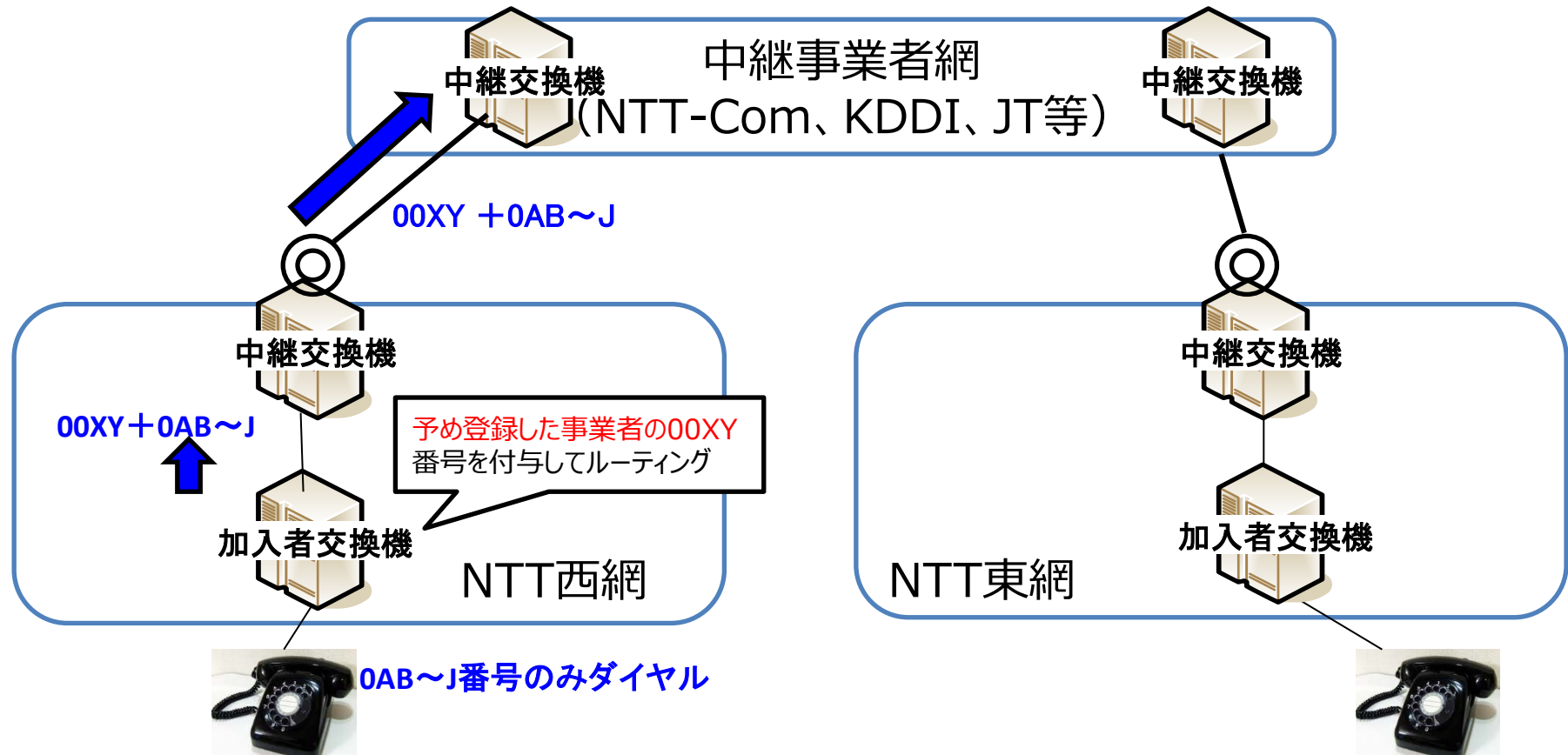


2. マイラインの導入

利用者が「00XY」をダイヤルしなくても事業者を選択できるよう、

- ◆ 各加入者が「**予め選択（登録）した事業者の00XY**」を呼毎に自動的に付与する機能を、NTT東西の加入者交換機に具備。

公正競争条件の確保 = **ダイヤル桁数の統一**



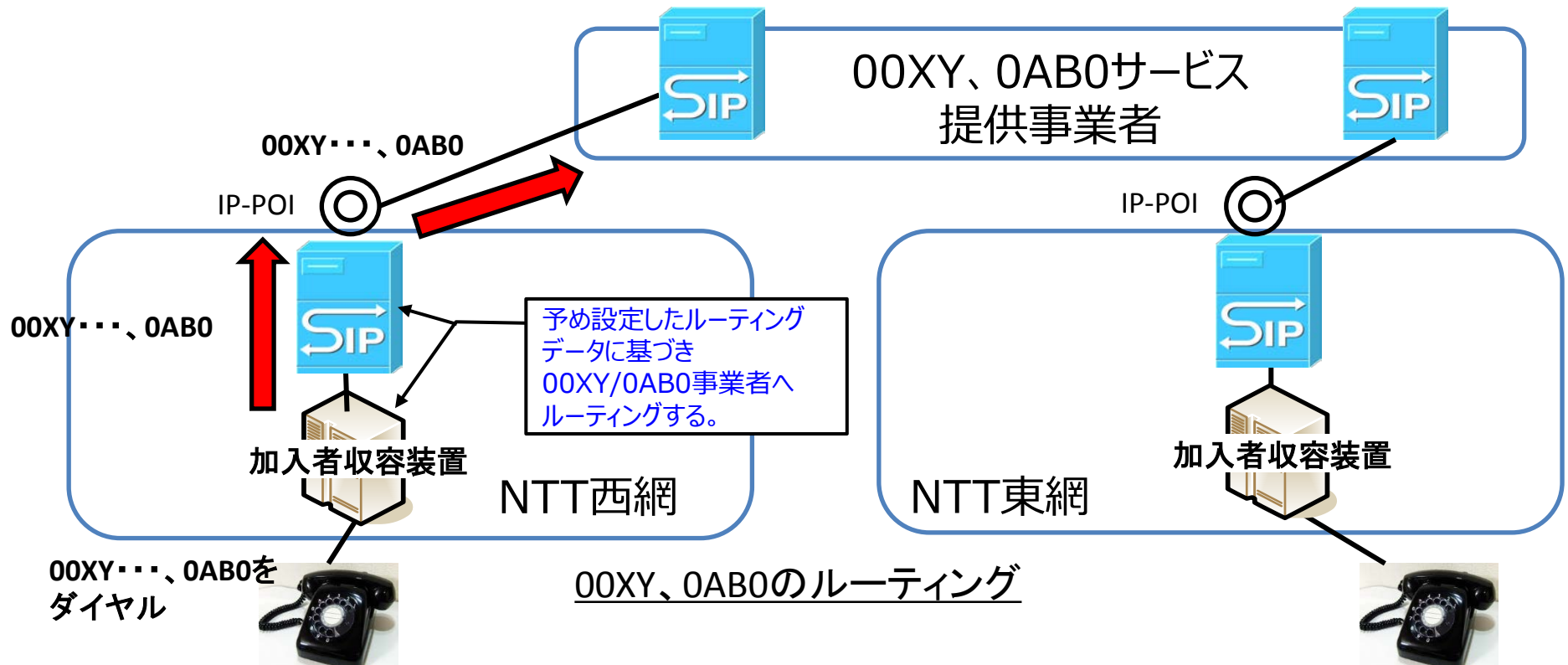
3. マイグレ後のマイライン

NTT 殿の意見：

◆中継選択（00XY&0AB0ダイヤルのルーティング）はIP化後も継続するが（下図参照）、**マイラインは廃止。**

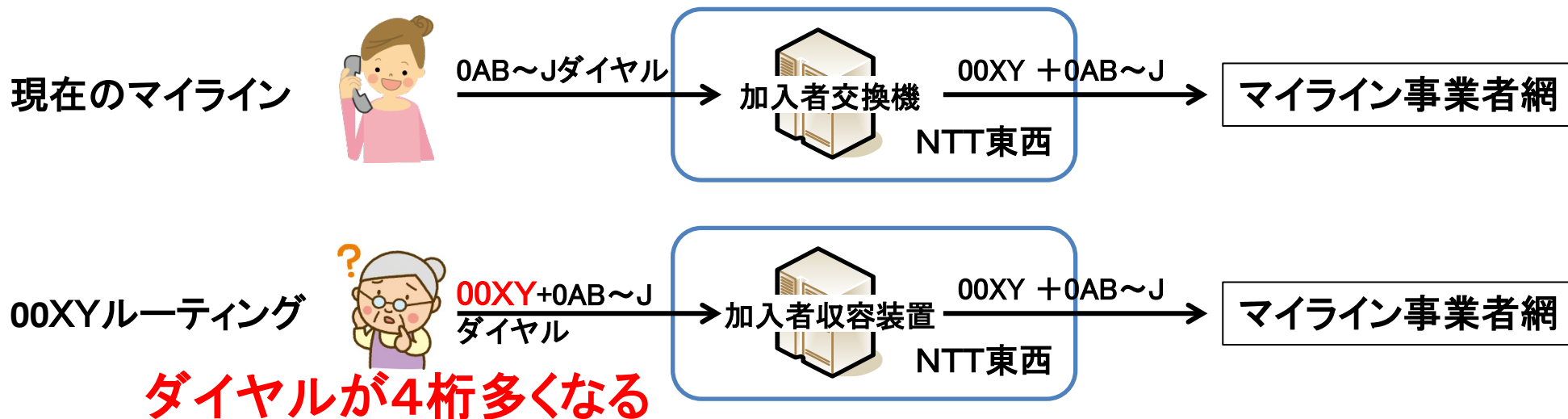
◆マイライン廃止後の移行先サービスとして以下の方法を提案。

- ・00XY手回しダイヤル（00XY+0AB~J）
- ・メタルIP電話の卸通話サービス



4. 00XYルーティングとマイライン（事前登録）の違い

元々ダイヤル手順の不公平性を解消するためにマイラインを導入した趣旨に鑑みれば、**00XYルーティングはマイラインの代替措置にはなり得ない。**
(マイライン導入前に逆戻り)



00XY付加サービスのためにはIP化後もルーティングの必要性は高い。
(⇒ 参考3)

5. マイラインの役割とマイグレにおける検討

マイラインには以下の役割がある。

- 利用者～事業者間の**タッチポイント**
- 利用者の**事業者選択の自由**と**競争環境の維持**



PSTNマイグレーション後も、これらの役割は確保される必要がある。



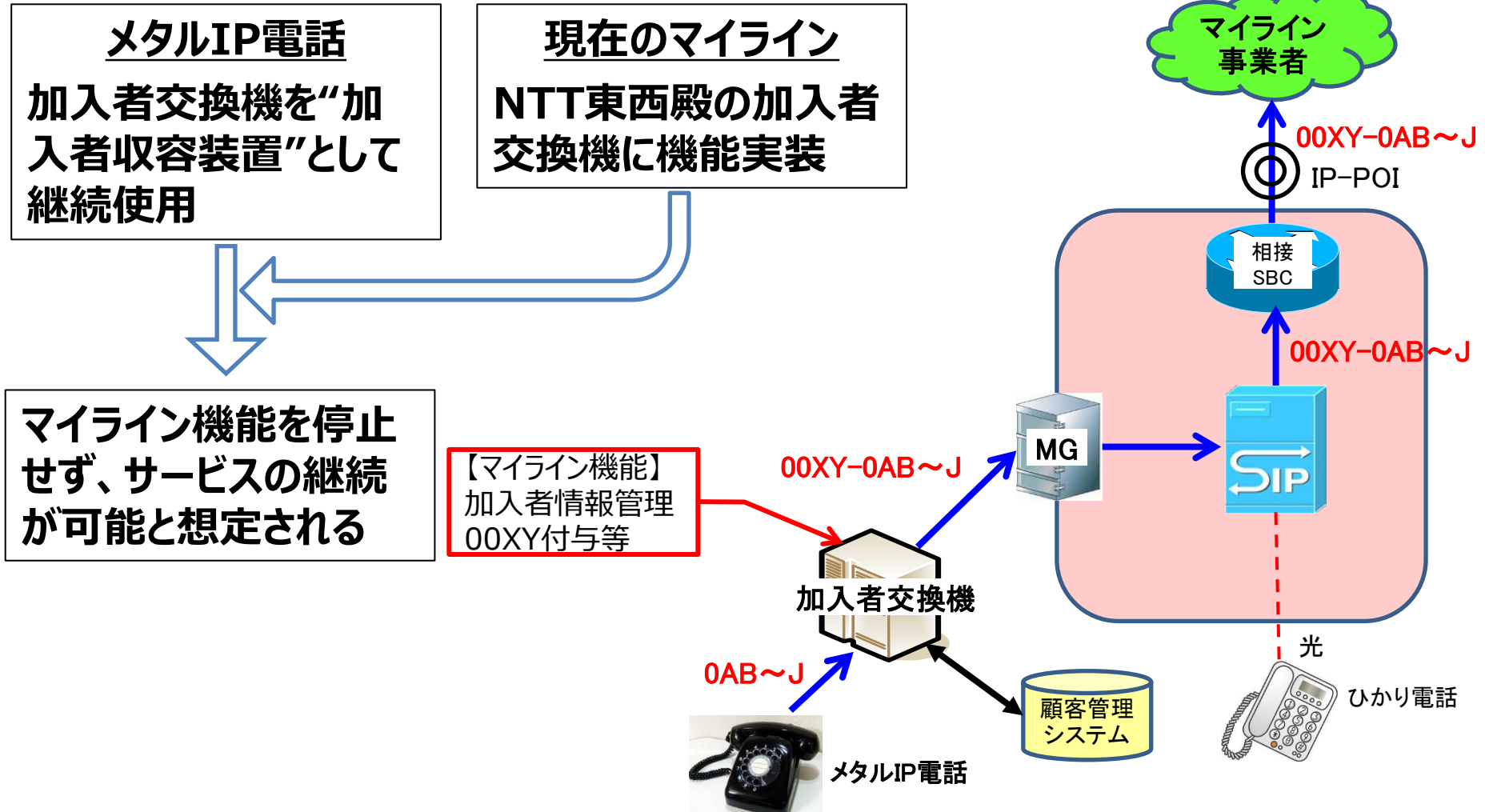
マイグレーション後のマイライン継続についても**実現性**を検討すべき。

【マイライン継続の案】

- ① 既存の加入者交換機の機能を活用
- ② NGNにマイライン機能を実装

6. マイラインを継続する場合 (1/2)

案1：現行マイライン機能の継続利用



6. マイラインを継続する場合 (2/2)

案2 : NGNにマイライン機能を実装

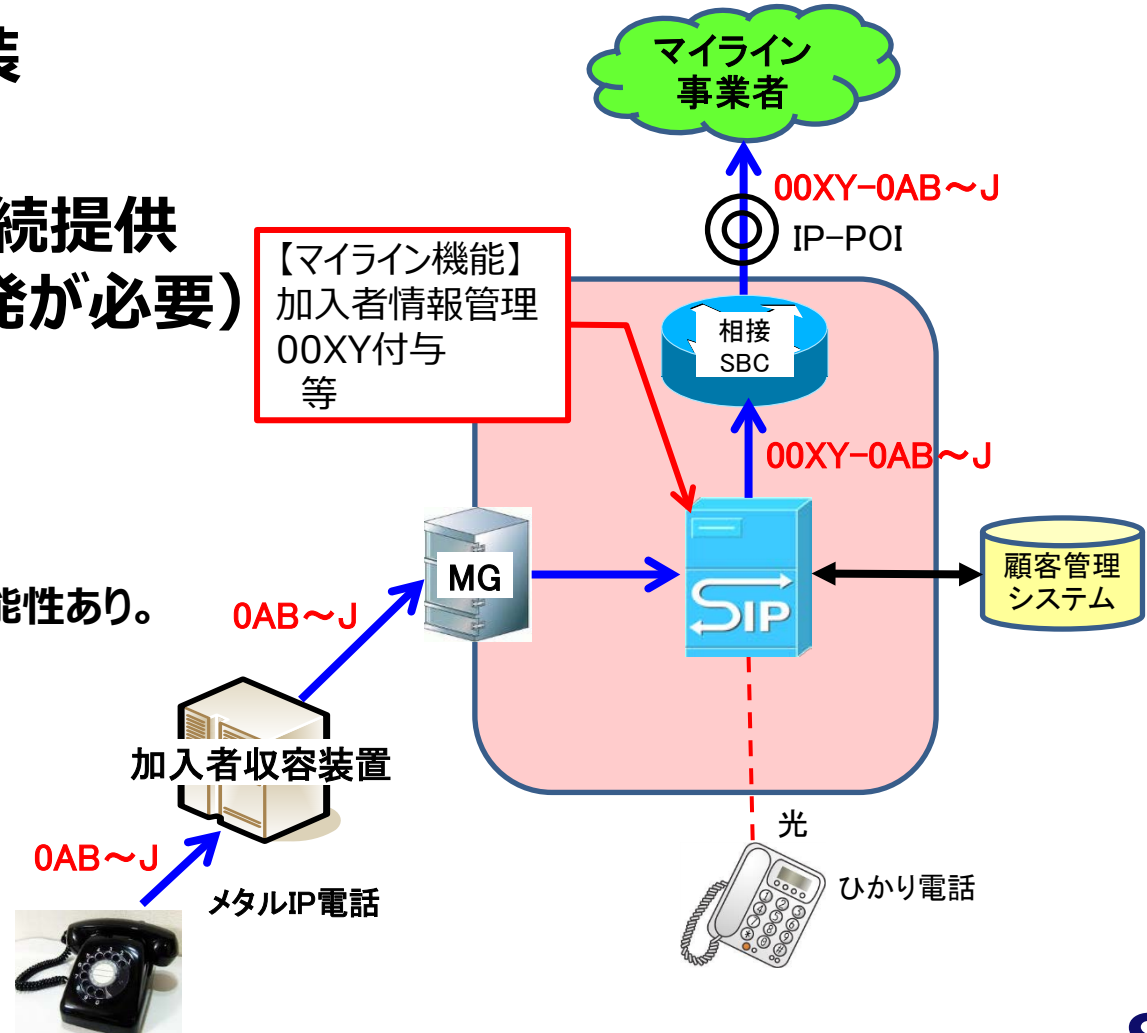
マイライン機能をNGN網に実装

- ▶ メタルIP電話の加入者へ、
現在と同様にマイラインを継続提供
(NGNにマイライン対応の開発が必要)

本案のバリエーションとして、コストダウンのため
現行マイライン機能の一部を省略した方式も可能性あり。

(例)

- ・マイラインプラス無し、
- ・国内3区分を1区分に統合 など



7. 検討の進め方

【検討の順序】

- 後述するように、**卸にはサービス切替えによる利用者への影響が大きいと予想される。**

このため、**マイラインの継続案（案1及び案2）を先行して検討**することが望ましい。

- 案1、2が適当でない**と判断されたときは、**次善の策としてNTT東西殿ご提案の通話卸（以下案3という）を検討。**
- 各案を比較検討するためには**コストは欠かせない要素**であることから、NTT東西殿には**各案のコスト試算及びその内訳等の情報開示**を要望したい。

8. 検討のポイント（1/2）

（1）利用者の契約変更

- ◆ 案3は利用者の契約変更が必要と想定。（卸サービスへの切替え）
 - 契約変更は全マイライン加入者（15年度末でのべ7千万登録）に及ぶ可能性があるため、大規模な周知広報活動と一定の移行期間が必要。
 - 特にマイライン4区分を異なる事業者に登録している利用者では、契約事業者を統一する検討等が必要。
 - 現マイラインでは国内/国際とも事業者ごとの料金差（割引サービス含む）があるため、卸への契約変更により混乱が生じないように考慮が必要。
 - また、利用者にとっての手間、関連事業者のコスト負担、手続き漏れ等によるトラブルが懸念される。
- ◆ 案1, 2はマイラインが継続されるため、契約変更は基本的に発生しないと想定。

（2）コスト及び負担方法

- ◆ これまでNTT東西に対してはマイラインを継続する場合（案1イメージ）のコスト算出を要望。検討には各案のコスト比較が必要。（案3では周知コストも含む）
- ◆ マイライン事業者にとっては、各案の全体コストだけでなく、その負担方法や実際の負担額が課題。

8. 検討のポイント (2/2)

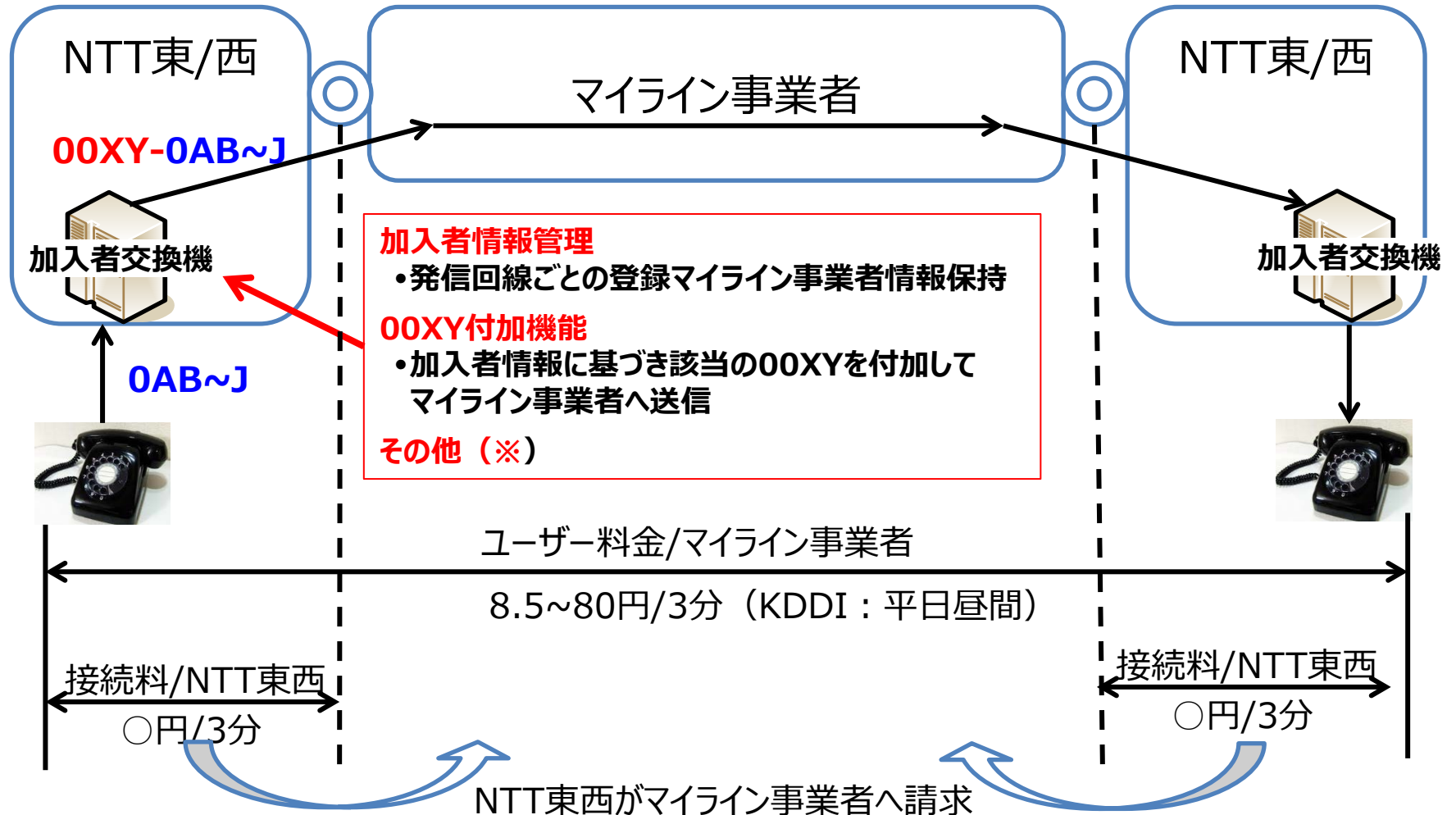
(3) 呼ごとの収支等

- ◆ LRIC接続料の傾向がメタルIP電話にも当てはまると仮定した場合、接続料は片端でも8円／3分を超える可能性もある。
- ◆ 案1または案2を採用した場合、
(マイライン事業者の通話料収入) < (接続料の支払額)
となり、マイライン事業者は赤字構造となる恐れがある
もしくは
ユーザ料金の値下げができず、結果として競争から排除される
⇒案1または案2の場合は、この問題を解決する必要がある。
(NTT東西殿はメタルIP電話の通話料＝全国一律8円/3分を示唆している。)
- ◆ 案3の場合は、卸約款の届け出制等による透明性、公平性の確保と共に、マイライン事業者が事業継続可能な程度の利幅確保が必要。

(参考 1 : 各案の比較)

	案 1 (NGNへのマイライン実装)	案 2 (加入者交換機の機能継続)	案 3 (卸)
距離区分	現状どおり (市内、県内、県間、国際の4区分)		距離区分無し? または国内・国際 2 区分か?
申込み、登録業務	現状通りの登録事務処理を継続 または、 コスト削減が可能であればWeb登録等への変更も検討可能と想定		マイラインとは異なる事務処理を想定
未登録回線の扱い (デフォルト)	現状どおり 市内、県内 = NTT東西 県間 = NTT-Com 国際 = 事業者プレフィックス (00XY) をダイヤル		NTT東西?
加入電話&ISDNからの移行 (利用者の契約変更)	マイラインの継続のため利用者の契約変更は不要と想定		マイラインから卸への移行により 役務提事業者との契約変更が発生 かつ、国内 3 区分同一事業者では ない回線では区分統一も必要
事業者間料金 (アクセスチャージ、卸料金)	中継サービスのため、両端の接続料により収支が左右される。		卸料金はNTT東西のユーザー料金 に対して一定の利幅を確保できる必 要あり。 約款届出制等による卸条件の透明 性確保が必要。
コスト	NGN (ひかり電話) において一 定規模の新規開発が必要と想定	新規開発はほとんど不要と想定	卸を実施するための情報システムが 必要と想定

(参考2：マイラインの仕組み)



※その他機能

- ・ダイヤルの区分判定 (市内/県内/県間/国際/マイライン対象外)
- ・マイラインプラス機能など

(参考3 : 主な00XY付加サービス)

事業者	ダイヤル	サービス
KDDI	0051	国際オペレータ通話
	0052-X・・・X	国際料金即知
	0053-X・・・X	国際着信課金 国内ダイヤルアップサービス 国際卸サービス など
	0055-X・・・X	プリペイドカードサービス
	0057	国際オペレータ問合せ
	0077-7X・・・X	フリーコール
	ソフトバンク※	0062-X・・・X
0063-X・・・X		第3者課金など
0065-X・・・X		国際クレジットカード
NTTコミュニケーションズ※	0034-800-X・・・X	国際フリーダイヤル

Designing The Future

KDDI